

2025年(令和7年)
4月号(第47号)
発行：東志賀学区
連絡協議会



学区のママ 笑顔の完走！

ウィメンズマラソン

名古屋に春の訪れを告げる「名古屋ウィメンズマラソン」が3月9日、東区の本テリンドームを発着点に開かれ、東志賀学区のママさんランナーも42・195キロを完走し、とびきりの笑顔を見せていました。
(文章・廣瀬和実さん)

亀田さん・丹羽さん・仲島さん



紫色のウェア姿の亀田あかりさん(写真左上)は4時間切り目前のタイムで快走。「完走でき満足と感謝の気持ちでいっぱい。普段車しか通れない100m道路などを実際に走れるのが魅力」と名古屋の街走りを堪能した様子でした。

今回で9回目出場の仲島美智子さん(写真右下)は「今回も家族の応援と沿道の皆さんやボランティアの方々の声援で楽しく完走できました」と家族みんなでマラソンを楽しまれたようです。



完走したママさんら女性たちの笑顔は、見る人たちにも元気を与えてくれました。学区の皆さんも来年はランナー、応援者としてウィメンズマラソンを盛り上げてみては。



総合優勝 河合さん／男子V 西尾さん

体育委員会

ふれあいG大会開催



恒例の第28回「東志賀学区ふれあいグラウンドゴルフ大会」が



グラウンドゴルフ 楽しみませんか？

健康づくり★地域交流



学区グラウンドゴルフ同好会(廣川俊樹会長)が仲間を募集しています。健康増進や仲間づくり、ストレス発散に最適。朝8時25分から稚児の宮公園や東志賀公園などでプレーを楽しんでいます。40代から90代までが活躍中。メンバーは、身体を動かす良い機会。長生きの秘訣です。と話しています。※申込は、東志賀コミュニティセンター(志賀町5の2の9)受付へ。

3月、東志賀小学校で開かれ、河合弘子さんが見事、総合優勝に輝きました。

大会は学区の体育委員さんが一生懸命、準備してくれました。日ごろ、学区の同好会で腕を磨いている出場者は、お米などの賞品を目指して元気にプレー。河合さんは「総合優勝は久しぶりで嬉しい」と笑顔で優勝カップを受け取りました。

◇入賞者の皆さん
【男子】①西尾栄蔵②木戸間則勝③永井秋雄④廣川俊樹⑤森鋭一
【女子】①河合弘子②丸山富子③二村敏江④上岡清子⑤花輪登代子
(敬称略)

今月の題字

4月号の題字は東志賀小5年の末田紬季さんが、躍動感あふれる、とってもかわいいワンちゃんのイラストを届けられました。桜満開。春いっぱい作品をありがとうございました。イラストは世代を問わず、募集しています。問い合わせ先は裏面に掲載しています。

街のニュース&題字募集中です！

■電話＝学区長の山崎悦男さん
090(1277)3131
■メール＝天野さん、神藤さん
heroeshensyuubu@gmail.com

これまで発行した東志賀ヒーローズと学区のボランティア通信「ささえあいたより」は北区社会福祉協議会のHPで読むことができます。

電子版新聞
ここから！

東志賀学区の情報が満載の公式ホームページ（HP）をぜひ、のぞいてみてください。2次元コードから。

地域を知る
学区のHP

地上から浮いている校舎？

「よみがえれ校舎の魅力」⑤

以前、当欄で現代建築のデザインの特徴として「屋上庭園」を話題にしましたが、もう一つ重要な考えがあげられていました。欧州で生まれた現代建築はそれまで、石など重い材料で作られた重厚感のある建物が一般的でした。そんな町のありかたから解放されたかのようになり、地面に重たく乗っていない、地上から浮いているようなデザインを目指しました。その1階が空いているような部分は「ピロティ」と呼ばれます。

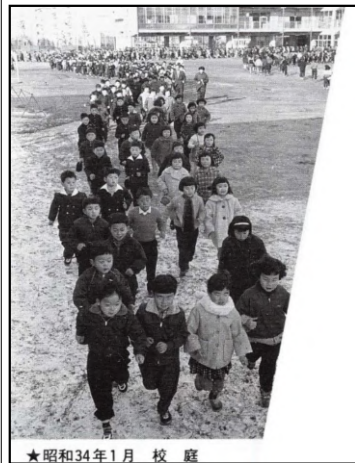
1959年の写真Ⅱ下段左Ⅱ



谷口元さん寄稿 「ピロティ」重厚感から解放



には楽しそうに行進する児童の背景に開放的なピロティと2階の職員室が写っています。今は地震に強くなるために、壁と仕切りが設けられて開放的な姿ではありません。でも、色々なことと使える便利な場所です。広島の原爆資料館（下段右）も同じデザインです。（文章・黒川東町内会長の谷口元さん）



★昭和34年1月 校庭

アメリカ編集室便り



「米国には町内会はあるの？」とよく質問されます。キリスト教徒が多い米国は教会が似たような役割を果たしています。ちなみに、筆者が暮らすエリアには日本人がたくさん住んでおり、定期的に親戚の食事会を開いています。乗り合いで郊外のスーパーに買い出しへ出かけたり、生活情報を交換したり。異国の地で地縁のありがたさが身に染みます。（鈴木龍司）

みんなで会食
コロナ禍以来

ワイワイ！対面の「ふれあい給食」

学区の民生委員さんらでつくる福祉推進協議会の皆さんが、住民に交流の機会を提供しようとしてくれていた「ふれあい給食」。3月の会には大勢の住民が参加し、手作りの煮

安田さんの野鳥日記
チョウゲンボウ@庄川

愛鳥家の安田耕治さんがオスのチョウゲンボウを撮影。ハヤブサの仲間といい、精かな顔つきです。自然の崖に巣を作りますが、近年は橋やビルでの営巣も多くなっています。庄内川・新川を渡るのを、古屋高速でも毎年春に子育てしているそうです。

付けを味わいました。実は対面での開催は初めて。民生委員さんらはコロナの自粛中も何とか住民のつながりを維持しようと、お弁当を配る取り組みを続けてきました。待ちに待った対面の会食。参加者の約半分は初参加の住民だったそうです。